

第2次稲敷市総合計画審議会（第2回） 議事録

日時：平成28年3月23（水）午後2時から

場所：江戸崎庁舎 2階会議室

委員：横須賀徹会長、浅野信行副会長、

根本光治委員、若松宏幸委員、篠田純一委員、

柳町政広委員、姥貝守委員、野村由紀子委員、

青木啓泰委員、田丸治委員、富澤富生委員、

岩崎昭一委員、小幡保委員、黒田功委員、

高須行雄委員、諸岡明美委員、高木正志委員、

墳崎崇史委員、高須晃次郎委員、沼崎夕子委員、

田村千鶴委員、清野敏秀委員

（欠席：伊藤均委員）

内田副市長

事務局：政策調整部長、政策企画課4名

コンサルタント：2名

■議事

（1）基本構想（たたき台案）について

1）基本理念・将来像について（資料1、参考資料1、参考資料3）

2）まちづくりの基本目標について（施策の柱）（資料1参考資料3）

3）将来指標（人口フレーム）について（資料1、参考資料4）

（2）その他

■配布資料

・第2次稲敷市総合計画審議会 第2回会議次第

・審議会委員名簿

・座席表

・資料 1 第2次稲敷市総合計画基本構想（たたき台）案

・参考資料1 総合計画策定方針（案）

・参考資料2 第2次稲敷市総合計画に係る課題の整理

・参考資料3 第2次稲敷市総合計画将来像及びまちづくりの基本目標

・参考資料4 将来人口の推計について

・いなしきに住みたくなっちゃう♥プラン 概要版

1. 開会

事務局：大変お疲れ様でございます。定刻となりましたので、会議を始めさせていただきます。本日は大変お忙しい中ご出席いただきまして誠にありがとうございます。ただいまより第2次稲敷市総合計画審議会第2回審議会を始めさせていただきます。

開会にあたりまして、横須賀会長よりご挨拶をお願いいたします。

2. 会長あいさつ

横須賀会長：来る途中、白いあしびの花や木蓮が、咲き始めているというよりも完全に開いて咲いていて、普通は同時に咲く桜はまだ蕾なので、木蓮と桜とでは感じ方が違うのかと思いますが、春が来たという感じです。

本日の中身なのですが、実は先週、事務局と打ち合わせをさせていただきました。打ち合わせをしなければならなかった中身というのは、皆さんと1回目の会議で話をして大体話をまとめた、議事の3番目の将来指標（人口フレーム）についてですが、去年の国勢調査の数字がはっきりと出まして、それが、役所では予想できていたのかいなかったのか、少なくとも予想よりもかなり悪い数字というか、県内でも減少が進んでいる日立市の次で、減少率でも3番目で、このフレームを立てるときの数字と違い過ぎてしまったというか、社人研という全体の人口フレームの推計をしているところの数字よりも悪い数字が、現実の数字として出てしまいました。その数字を基にして、事務局方は一生懸命この基本構想、基本目標などを作ってきたということなのですけれども、元々のフレームが変われば、その辺りのフレームも、もう一度見直さなければならないのではないか、というような議論を、先週いたしまして、全体見直しかなという状況の中で今日を迎えました。

ということで、もう一度、人口フレームの話から説明をいただいて、現実との乖離の話を説明していただいて、その後、前のフレームの中で考えていた基本構想とか、目標のお話を聞かせていただいて、それに対して皆さんの忌憚のないお考えを皆さんから出していただいて、その辺を土台にして、次の作業に入っていただくというような形にしたいと思っておりますので、中身を聞いて、それぞれご意見をいただければと思っておりますので、よろしくをお願いいたします。

事務局：ありがとうございました。議事に入る前に、先日行われました市議会定例会におきまして、市民福祉常任委員会の委員長の変更がございましたので、ご紹介させていただきます。若松宏幸委員でございます。

若松委員：若松です。よろしくをお願いいたします。

事務局：どうぞよろしくお願いいたします。

3. 議事

事務局：それでは次第に従いまして、早速議事に入らせていただきたいと思います。
議事の進行につきましては、横須賀会長にお願いしたいと思います。よろしく
お願いいたします。

横須賀会長：それでは、第2回の会議を始めさせていただきます。できますれば、前回、
ご欠席された方と新任の方に短いご挨拶をいただきたいと思います。よろしく
お願いいたします。

姥貝委員：教育委員会教育委員長を務めさせていただいております姥貝と申します。会
議が重なりまして前回は出られませんでした。よろしくお願いいたします。

横須賀会長：それから、今ご紹介がありました若松委員、お願いいたします。

若松委員：このたび市民福祉常任委員長を拝命いたしました若松宏幸でございます。稲
敷市の人口問題には非常に興味を持っておりまして、どうすれば稲敷が活性
かできるかということについて、皆さんと協議できればと思っております。
よろしくお願いいたします。

横須賀会長：ありがとうございました。条例には、委員以外の方からも意見を聞くこと
ができると定めてございますので、市の総合計画策定委員会の委員長であり
ます内田副市長に本日出席いただいております。よろしくお願いいたします。

内田副市長：副市長の内田でございます。どうぞよろしくお願いいたします。

(1) 基本構想（たたき台案）について

1) 基本理念・将来像について（資料1、参考資料1、参考資料3）

2) まちづくりの基本目標について（施策の柱）（資料1、参考資料3）

3) 将来指標（人口フレーム）について（資料1、参考資料4）

横須賀会長：既に今日の資料は皆さんのお手元に配布されてございますけれども、議事
としては「(1) 基本構想（たたき台）」は、「1) 基本理念・将来像につ
いて」、「2) まちづくりの基本目標について（施策の柱）」、それから、
3番目が「3) 将来指標（人口フレーム）について」という形になっており
ますけれども、前回やっております人口フレームの話から説明していただい
て、どう変わってしまったのかという辺りの説明をいただいた後に、まとめ
て基本構想（たたき台）、まちづくりの目標、施策の柱のたたき台の辺りを
ご説明いただいて、その後皆さんからご意見をいただくという流れでやって

いきたいと思います。それでは事務局の方で説明をお願いいたします。

<資料確認・事務局より説明>

横須賀会長：説明ありがとうございました。それでは最初に区切ってご意見をいただいて、後は全体のご意見をいただくという流れにしていきたいと思います。

まずは、最初にご説明いただいた将来人口推計ですが、参考資料4を見ていただきますと、前回の議論では、青い線を前提に進めてきたという形ですけれども、実際に平成27年の国勢調査の結果で、この青い線との間に2,500ぐらいの差が既にできてしまいました。そのまま結果的に差が開いていくだけではないかということで、計画の上滑りということが考えられますし、もう一つは、過去の総合計画でもそうなのですけれども、過剰投資と言いますか、目標数値が大きすぎて投資額が大きくなってしまうという問題もあるかと思っておりますので、数字の修正が必要だろうということです。黒い数字は社人研の推計なのですけれども、社人研の推計よりも下になってしまいました。赤い線の【パターン1】は、ほぼ最初に出した青い線の推計のグラフの線と平行な形で数字を考えたもので、もう一つは、黄色い線の【パターン2】は、社人研を下回ってしまいました。社人研とどこでクロスさせるかということも考えたものと言うことができます。

夢を持つには人口が大きい方が良いということもありますが、夢ばかり持っていて現実的に投資の空回りということもあるかと思っておりますので、どの辺りの人口パターンがよろしいか、また、もう少し違う考え方もあるのではないかと、ということも含めて、ご意見をいただければと思いますけれども、いかがでしょうか。

と言ってもなかなか難しいですね。恐らく、計画のプランニングを見ると、具体的なプランニングに入っていくと、基本理念のところと将来像とは違って、子どもの話から始まっています。将来に託そうという気持ちなのだと思いますけれども、どのようにして人口を維持するのかとか、どうやって増やすのかといった、そもそも論のようになってしまおうと思っておりますが、こういうのはどうかということがありましたら、ご提案いただいて、それで中身の方に入っていきたいと思いますが、いかがでしょうか。

田村委員：市民代表の田村です。人口の減少についてなのですけれども、目標値の話とは少しずれてしまうかもしれませんけれども、先程、生涯学習の充実という話が出ましたが、稲敷市には、お金を取っても良い文化施設というものがありません。文化会館とか、プロの人を呼び込めるような施設、プロを呼んでも料金を取ることができる施設があることによって、他の地域の人を呼び込むことができるのではないかと思います。私も音楽をやっていますが、この

土地にはそういったものがないので、そういうものがあるところへ自分が行ってしまう方が早いので、そういう形で移動してしまうこともあるのではないかと思います、発言させていただきました。

横須賀会長：ありがとうございます。他にはいかがですか。

墳崎委員：市民代表の墳崎です。平成41年の目標人口の人数が約35,000人～約38,000人という数字を示されていますけれども、現在の人口は42,769人です。そこから過去のデータの下がり具合などからこの数値を算出しているのかと思いますけれども、現在の約43,000人から約35,000人に、8,000人が減少していくということは、もう避けられないものとして、この約35,000人という数値を出しているのでしょうか。

横須賀会長：あくまでも、数字の今までのトレンドで出している話で、後は、施策でそれをどう留めるとか伸ばすとかという話だと思います。ただ、現実として、茨城県で2番目に減少が多いとか減少率が3番目だということを考えると、このトレンド上は、どうしても5,000人とか8,000人とかの人数が減少してしまうのではないかと、ということが想定できるということです。それを強力に食い止めるだけの施策があるのかどうかというのは、次の段の話になると思います。あくまでもトレンドで見たときにこうなりますということです。

過去の高度経済成長期の総合計画というのは、人口トレンドを出して、それに、ここでこのような開発をしますと言って、500人とか1,000人という人口を乗せながら数字を作っていました。極端な話、絶対達成できないような数字を作ったりすることもありました。例えば、市の名前を出すのは悪いのだけれども、県内で人口減少数が一番の日立市は、過去に20万人以上人口がいて、合併前には21万人くらい人口がいました。高度成長期の目標は30万人くらいだったと思います。そうすると、30万人に対応できるような水道供給ですとか下水の排出ですとかを前提にして考えるわけです。茨城県内でも水道も下水道も非常に普及も早かったのですが、そういう中で、現実に30万人分の処理施設とか管を持ってしまいました。処理施設は系列を止めていくつただけ使えば良いのですが、パイプは700mmあれば良いものが1mのパイプを使っていて、取り替えるときに部分的に700mmにするわけにはいかないので、現実よりも倍くらいの値段の更新をしなければならないということにもなってしまいます。

この頃は、こういった人口トレンドの見方というのは、将来推計をトレンドで見ると、後でどうしても増えてしまったときには、後で別の管を入れれば良いという考え方で、どちらかという目下で考えるのが普通だと思います。そういう中では、今の流れがこうなのだから、このような推計が出ますよということで、でも寂しいからこうしようとか、もっと厳しくしておいてプラ

ス α で対処すれば良いのではないかと、そういうことだと思います。

高木委員：市民委員の高木と言います。人口減少を減らすためには、稲敷市に住む定住人口を増やして人口流出を防いでいくことが大切だと思います。全国で多くの自治体が人口減少に悩んでいます、一方で、人口減少から抜け出して増加に転じた自治体もあります。私は今、教育学を勉強していて、島根県の海士町というところに何度かお邪魔しました。米子市から船で3時間ぐらいかかる過疎地なのですが、そこに若い人がたくさん入ってきていて、人口は上昇傾向になっています。そのような自治体も全国にはありますので、そういった自治体を参考にするのは良いと思いますけれども、そこでは教育に力を入れていました。小中学校の教育はもちろんですが、高校がありまして、市民と共に子ども達の教育をする、ということが行われております。子ども達というのは、その地域の将来を担う大切な人材だと思います。ですから、施策として教育に力を入れていくことは大切だと思いますし、なかなか教育に市民が入れるような環境ではないところも多いと思いますけれども、閉鎖的な教育環境を変えて、少しでも市民が教育に参画できるような仕組みを整えていくことが、これからは大切なのではないかと考えています。総論から各論に入ってしまったって申し訳ありません。

横須賀会長：ありがとうございます。実際に海士町は人口が増えているということなのですが、どこまで定住、定着するのかということが、これからのポイントだと思います。実は、水戸市にも海士町の町民がいます。駅のエクセルというところにレストランがあるので、海士町の観光協会がやっている島の食事を出すレストランなのですが、その方は海士町に生まれも育ちも関係ない人で、レストランを経営しているところに就職して、結果的に水戸市で、島関係の物産を扱いながら島のものを食べさせるようなレストランをやっています。そのようなレストランが日本中にありまして、日本中の島に声をかけて、ある種先導的なことをやっています。自分の島の特長を上手く使ってやっていて、そういった人達や高校生が最終的にその島にどのように定着するのかということが一番の課題だとは思いますが、実際にあそこはダイナミックに動いていると思います。

清野委員：疑問に思ったのですが、推移の減っていく最終段階と言いますか、これ以上はやばいという数字は稲敷市の場合は、どのくらいなのでしょう。

横須賀会長：既に社人研の推計を下回ったということは、かないやばいです。社人研の推計というのは、それ程厳密ではありません。あくまでも機械的にこれまでのトレンドで数字を出しています。ただ、トレンドは急降下してしまうこともあるわけですが、実は、そうさせないように数字を作っています。あまり失望させてはいけないという数字の作り方なのですが、逆に言

うと、社人研の推計はギリギリの数字で、それを下回ってしまったので、少し本腰を入れないとまずいのではないかと私は思います。ただ、社人研の数字を下回っているところはたくさんあります。稲敷市だけではなくて、日本中にたくさんあるのですけれども、それでも、これだけ下回るというのは、本気で気にした方が良くと思います。

清野委員：数字が上回っているところはあるのでしょうか。

横須賀会長：消失すると言われたところがプラスになっているところもあります。家族単位の新規の転入に力を入れました。そのときに、一番気を遣ったことは、奥さんの働き口、パート口ですね。子育てをしながら、農協の事務をやるとか、どこそこ協会の事務をやるとか、現金収入の道をどのように作るかということを考えました。旦那は何しろ新しい農業の形を作るとか新たな企業形態を作るとか一生懸命やって、生活は奥さんの町が斡旋したパート口で支えながら、子ども達は町が全部面倒をみる、というようなことをやりました。そこは、現実が一番やばいと言われていたのですけれども、プラスという程ではありませんが、このようなトレンドよりは良いという数字になっています。ですから、覚悟をするというか、何でもやらなければならないというところにまでいったところは、逆に強いのかもしれません。そのぐらいになると稲敷市も、もしかしたら茨城県で一番強い自治体になるのかもしれません。どうでしょう。若い方のご意見はいかがでしょうか。

岩崎委員：民生委員協議会の岩崎と申します。老人グループの一員です。実は、将来人口推計を見まして、平成 27 年の数字は社人研の推計から 1,200 人ぐらい、平成 52 年の人口ビジョンから見ると 2,600 人ぐらいの減少と出ています。先生の方もびっくりぼんという感じであろうかと思えますけれども、私は今回このように社人研の推計よりも落ちたけれども、ある程度のところにいったら段々と収まってきて、社人研の推計以上になってくるかもしれないという期待も持っております。

それはそれとしまして、私は福祉の方をやっておりますので、福祉の方から言いますと、まちづくりの基本目標で、1、2、3のように、それぞれ市民に直接携わるような目標が前面に出てきたことは非常に良いと思っています。例えば、1 番の「すくすく子育て学びのまちづくり」の取り組みの方向性案として「質の高い教育・保育及び総合的な子育て支援の充実」というものが一番トップに上げられています。今、この市内の現状を見るときに、やはり保育所では待機児童がいるということがありますし、子ども達で言えば、放課後の保育と言うのでしょうか、それをやっていくということもあります。そういう施策を思い切ってやっていくしかないと思います。これをやって、子どもを守るということは、その家族を守るということでもありますし、その

家族がそこへ定着するような方策を取っていけば良いと思っております。

それから、2番目の「いきいき元気に暮らすまちづくり」の方も、最初に「地域ぐるみの取組など地域福祉の充実」ということで「地域福祉・障害者福祉」、それから「高齢者の総合的な福祉の充実と介護保険制度の運用」ということがありますけれども、現在稲敷市は3人に1人が高齢者です。そのうち1万2千何百人は1人暮らしです。このような現状を皆さんに知ってもらって、それに対する対策・応援、支援をしていってほしいと思っています。と言いますのは、3万4千人～3万5千人いる高齢者の中で、2万数千人が要援護者として認定されることを希望しています。もし災害が起きたときに、どのように対応するかということを考えた場合、民生委員の対応だけではとても支援しきれませんので、その支援体制をぜひ取っていただきたいと思っています。そのためには、やはり地域ぐるみ、行政区全体としての取組を進めることによって、そういった要支援者を守っていくことができると考えます。そういうことをぜひ進めていってほしいと思っています。

横須賀会長：ありがとうございます。人口の話に戻らせていただきますと、2040年から出生率2.1という、今の現実から見ると異常に高い数字を前提にしてグラフを作っているということが現実です。自然増と言われる、亡くなる方と生まれる方の比率は自然減となっています。社会増と言われる、稲敷を出て行く方と入ってくる方、これも社会減になっています。両方とも減になっています。ですから、生まれること、入ってくること、その辺りのことを整理して考えないと次の展開がなかなか難しいということかと思えます。

時間も半分経過してきた中で、具体的にこの中身について、基本理念は「“まずはみんなでやってみよう！”のまちづくり」、将来像は「みんなが住みたい素敵なまち」で、その下に基本目標が「子育て」、「いきいき元気」、「安全・安心」、「快適」、「市民と行政」とあります。基本理念で言う「“まずはみんなでやってみよう！”のまちづくり」は、基本目標で言うと5番目です。だから悪いということではありませんが、基本理念が施策的には一番最後にきています。将来像の「みんなが住みたい素敵なまち」これはどちらかというところ4番目の「快適に暮らす」という部分にきています。自然増を増やすには子どもが大事だという話なのですが、教育行政のうち義務教育以外を全部市長部局でやっているわけではなくて、一番目の「子育て・教育・文化分野」の大半は教育委員会の分野です。教育委員会と市長部局は別の組織です。そう厳密に考えなくても良いのかもしれませんが、他の分野のことを市の総合計画で頭にしておいて、それが基本理念や将来像にダイレクトに表れていない、ということも含めて考え方を整理した方が良いのではないかと気がしないでもありません。新しい庁舎ができて、この計画がで

きたときには、行政分野の分け方が、この分野を全て市長部局に組織換えするとか、そういった考え方を持つことができるのであれば、この形が維持できるのかなというように思いました。

先週打ち合わせをしたときに、もう少し整理をしなければならないのではないかと考えたことは、その辺りのことです。それで今日は副市長も来てくれているのではないかと思うのですけれども、この計画ができたときの組織展望ですとか、ダイナミックに行政が展開していくのかどうか、その辺りのことで、副市長、話すことがあればお願いします。

内田副市長：横須賀先生へのお答えにはならないかもしれませんが、申し訳ありませんが、新しい市役所ができて組織をどのように変えるかということについては、まだ全く議論をしていないのでお答えできないのですが、先生がおっしゃったように、教育は教育委員会で市長部局とは別の組織だということはもっともなお話なのですが、ただ、市民の皆さんの感覚からすると、教育もやはり同じ市の中でやっていることなので、あまりその辺りはこだわらなくても、恐らく市民の皆さんはその辺はこだわらないと思いますので、市民のために作る計画なので、個人的にはそれで良いのではないかと考えています。

それから、先生がおっしゃっていた、基本理念の「“まずはみんなでやってみよう！”のまちづくり」というのは、確かに市民協働の、ここで言うの基本目標の5番の部分ではあるのですけれども、ただ、私共事務局の考え方としては、みんなでやってみようというのは、全てにかかってくることだと思っています。例えば、教育でもお子さん達が自分でできることをまずやってみようとか、あるいは、福祉の分野でも当然行政がやる部分もあるけれども、地域の皆さんがボランティアとかでやっている部分もあります。そういう意味で、全てに関わってくるのではないかと思います。それがトータルの的にやって「みんなが住みたい素敵なまち」に繋がるのではないかと考えています。事務局としては基本理念も将来像も全体を含んでいるという考えでおります。あまり答えになっていないかもしれませんが。

横須賀会長：ありがとうございました。考え方はとしては、全体をまとめて、みんなでやってみようということだと思います。ただ、子育てなどは、今では割りと市長部局に持ってくるようなところも多いので、計画ができあがって、それを推進するという段階にご検討いただければと思います。

富澤委員：元に戻って申し訳ありませんが、市の方で今やっていることは、これに逆行しているのではないかと思います。新庁舎にも生涯学習が入っていません。このような計画を策定しても実際の行動にとってはマイナスだと思います。田村委員から有料施設もないと、というご指摘がありましたが、無料ということは良いことでもあるのですけれども、住んでいる人だけになってしまっ

て、他からの情報も交流もないということです。私共はスポーツの方でいろいろとやっていますけれども、今はスポーツの予算も削られていますから、やっていることが逆行しているのではないかと思います。若い人も意見を言っているわけですから、いろいろと取り入れていただきたいと思います。たまたま公民館の関係で、今庁舎を壊して建てるということですが、これも3分の2に縮小されてしまっています。言っていることとやっていることが違うので、その辺も住み良い環境を作るのであれば作る、金をかけるのであればかけると、やることはやらないとならないと思いますので、その辺もご検討いただければと思います。

横須賀会長：他にご意見はいかがでしょうか。

高木委員：この基本目標では、子育てと保健福祉分野とが分かれていますけれども、実際には、例えば、稲敷市にはお年寄りの方がたくさんいますので、そういう方が学校で放課後に子ども達の指導に当たるとか、日ごろから学校にお年寄りが入ることができるようになれば、高齢者の生きがいつくりにも繋がるのではないかと思います。それから、5番の「がっちり市民と行政が連携するまちづくり」についても、国の方では今、コミュニティスクールという、学校と地域の連携を推進していますので、学校に市民の方が入る機会というのも今まで以上に増えているのではないかとともに思います。文部科学省では、初等中等教育局の上に生涯学習局が最上位局として設置されていますので、国の流れとしても、市民と共に子ども達を育てていくという方向に進むと思いますので、先程横須賀先生や内田副市長からのお話もありましたけれども、そのようなことも踏まえながら検討していただければと思っています。

横須賀会長：他にはいかがでしょうか。

田村委員：先程出ました通り、子育てをする環境が大事だということは自分も子育てをしているので深く感じています。今現在、稲敷市には有料施設がないということで、スイミングスクールや塾とかダンス教室なども市外の施設を利用している方が多くて、お金を取れる施設がないということも大きいのですが、そういうものがないために、便利な他所に移ってしまうということも聞きますので、その辺りのことも取り入れていただきたいと思います。

それから、共働きの家庭からは学童保育などをもう少し利用しやすくしていただきたいという意見もあります。今は、学校と児童館の距離が離れてしまっていますが、他所の市町村の話聞いたところ、学校の敷地内に子どもを預かる施設があるところもあるそうです。学校に迎えに行く分には親御さん達もそれほど負担ではないのではないかと思いますので、その辺りも取り入れていただけたらと思います。

それから、私は学校の方で少し役員もやっているのですが、昔に作ら

れた組織なので組織が分かりにくいです。育成会とか子ども会とか、いろいろなものがあるのですけれども、それが分かりにくくて、役員ばかり、会議ばかり多くて、負担が大きくてやりたくないという人もたくさん出てきてしまっています。ですから、組織の見直しということも考えていただければと思います。

横須賀会長：他にはいかがでしょうか。

岩崎委員：基本理念、将来像のところなのですけれども、「“まずはみんなでやってみよう！”のまちづくり」となっていますが、「みんなでやってみよう」ということは、何かをやるための行動をどうするか、ということだと思えるのですけれども、それが基本理念として第一に挙がるものなのかという疑問を持ちました。何か、方法が目的になっているような感じがします。本来であれば、目標を掲げて、どのような方法で進めていくのか、という流れになるのではないかと思うのですけれども、逆になっているような気がします。その辺りは、ぜひ先生に聞いてみたいと思ってきました。

横須賀会長：この基本理念や将来像、基本目標については、私はプランニングに参加していないので何とも言えないのですけれども、恐らくこの基本理念は、まちづくりの考え方の基本の部分で、何しろみんなでやろう、というまとめ方をしたいということで、このような案になったのだらうと思うのですけれども、このようにダイレクトにまちづくりの基本理念を言っているところは、確かにないと思います。もう少し違う言い方をしていると思います。何しろ、みんなで取り組もう、ということと言いたかったのではないかと思います。将来像も非常にシンプルですよね。このような数字も出てきた中で、そのようなまとめ方をしたいという意思表示なのかと理解したのですけれども、どのような謂れでこのような台詞になったのかということについては、私も理解してはおりません。

その他にはいかがでしょうか。

岩崎委員：関連して、参考資料1の策定方針（案）の2ページに、「総合計画の今日的な課題について」という項目がありますが、読んでみて、具体的には何なのかということ疑問を持ちました。

横須賀会長：これは、総合計画というのは、高度成長期に、国が作れということで、地方自治法の中で議決しなければならないものとして定めてきました。革新自治体が活躍した時期で、国の計画通りに動いてもらいたいという意味も含めて、総合計画をそれぞれ作って、策定したら議決せよ、という義務規定を作りましたが、国の方は、いつのまにか計画官庁の経済企画庁も国土庁もなくなってしまうと、どちらかというと、計画よりも単年度予算の方が強い形になってきてしまいました。逆に自治体は総合計画があつてはじめて予算や行

政評価もできるということで、今、計画に対する取り組み方が逆転してしまっています。そういう中で、国は議決しなくて良いということにしてみました。稲敷の議会を含めて、総合計画については市民代表の議会で議決をしていくという条例を作って、稲敷市の運営の柱にしていくということを決めたということが、ここで言われているメインの部分だと理解しています。

その他はいかがでしょうか。

根本委員：議会の根本です。お世話になります。将来人口についてなのですが、個人的には厳しく取るべきだと思います。先生がおっしゃるように、緩く見ていると間違いなく過剰投資になってしまいます。現実的に限られた予算を使っていく中で、本当に厳しく見るということを市の姿勢として捉えていないと、本当に必要なもの、将来的に使わなければならないものに関して、間違いなく使えなくなってきました。非常に厳しいこの状況の中で、合併したために融和政策として非常に緩くなっています。本来はもっともっと厳しくやらなければならないという現状を、しっかりと共有できるものをまず作っていかないと、次には繋がっていかないのではないかと思います。教育や子育てに力を入れるという理想はいくらでも言うことはできますが、持っているものはお金ですから。これをどう使うかということと、共有できたことにおいて、皆さんと一緒に考えていただくアイデアを作っていくことだと思います。現実的にこのような場がどれだけあったかという、これまでの10年では、ほとんどありませんでした。このような機会をたくさん作ることを積極的に市がやっていく姿勢を見せていくということは、大切なのではないかと思います。

先程、議論の中で、基本理念の「“まずはみんなでやってみよう！”」というものに少し違和感があるという話がありましたが、私も違和感がありました。これは、役所の内部の話を書きたかったのではないのでしょうか。皆さんご存知の通り、10年間やっていてバラバラですから。役所の内部がまずは汗をかかなかつたら、私達に汗をかけとは言えないと思います。先をずっと読んでいると、苦しくなったときに、市民の方々にいろいろとお願いします、できることはやってください、というような状況になりますよ、ということ、前もって言われているのではないかと思います。その前に、本来は大々的に、役所はやるべきことを徹底的にやります、ということが出てきて然るべきであって、その辺りのチグハグさが違和感になるのではないかと思います。その辺りを明確に出していただけるようなことがあれば良いのではないかと個人的には思います。

横須賀会長：他にはいかがでしょうか。

柳町委員：議会の方から来ている柳町です。老人会の方が言われていた中に、何でもあ

れもこれも頼んでいると、予算のことを考えた場合にパンクしてしまいます。例えば、一家の家計を考えた場合に、お父さんは大きな農機具がほしい、お母さんは大きな冷蔵庫がほしい、とみんながあれもこれもほしいと言っても限度があるので、うちはもっとコンパクトにしようとか、車は中古でも良いとかというようにしますが、そんなことを考えながら聞いていました。がま口を握る人としては、どこかで全体の目標に必要なものだけを、あれもこれもではなくて、あれかこれかに絞らないと駄目なのではないかなと思います。資源保全ということで、農林省の予算ですけれども国の方からいただいた金で、これから進めようというときに、中学生にも動いてもらって花壇づくりをやろうとか、老人会にはこの部分の草刈をやってもらうおうというようなものを進めています。今、一番困っているのは、ゴミを出せなくなっているおじいちゃん、おばあちゃんがいて、地域でその人達をどうしようかと考えていて、ヤクルトのおばさんではありませんが、安否の確認をできるような人達で、私なども壮年期から初老に入った年代の人達は時間的にも一番余裕があると思うのですけれども、どこに手を出そうかと思います。昔、“Let’s begin”という言葉がありました。年代年代で、できることがあれば、それをやられたらどうかと思います。まずは、やってみようということからは始めるのも良いのではないかと思います。

浅野副会長：副会長の浅野です。私の立場で意見をすることも何なのですが、先程、会長の方からも話がありましたけれども、人口減少という危機感の共有と言いますか、一番危機感を持ってもらいたいのは、市長、副市長です。それから、市民の皆さんにも感じていただきたいです。稲敷市は、消滅可能性都市にも入っています。それに対して、このような項目が出て、それが現実として施策に生きていない部分もありますし、では具体的にどこへお金をかけるのかというと、全体的にかけたら足りないわけですから、例えば、教育なら教育、そこへお金をかけるということもあるでしょう。今日は農協の理事長も来ていますけれども、今、子どもが減っていないのは浮島の小学校です。なぜ減らないのかというと、やはりレンコンの農家で後継者がいるからです。農家の所得が上がれば、自然と後継者も出てきます。稲敷市は農業が主幹産業だと言っていますけれども、ここに具体的な施策は出てきていません。農家の所得をどのように上げるのかというような施策も出ていません。ここにあることが全てできれば、本当に稲敷に来たくなるのではないかと思います。すけれども、その辺りのメリハリをつけながら、危機感を感じながら、思い切った施策が必要だと思います。例えば、プールの話もありましたけれども、学校のプールを活用して民間の会社を誘致すれば、学校内にスクールができて子ども達も通うことができますし、授業でも使うことができます。稲敷市

には線引きがまだまだ多くて、東と桜川は大丈夫ですけれども、新利根、江戸崎は線引きの足かせがかかって開発行為もできません。その辺りは特区でも何でも思い切った施策をしていかなければならないと思います。

人口減少というのは稲敷市の問題だけではなくて、他の周りの自治体でも問題になっていることですから、ここだけ良くなって隣から引っ張ってくるといっていいことも仕方ないですし、具体的にこれをメインにしていくのだ、ということを行行政の方でも掲げていかなければ、全部やろうと思ってもお金も足りないことですから、メリハリを持ってやっていけば良いのではないかと思います。

横須賀会長：まだご発言いただいていない方もいらっしゃると思いますので、ご発言いただきたいと思うのですが、子どもの話も出ていますから、教育長さんいかがでしょうか。

姥貝委員：個人的な意見になってしまいますが、この資料を前もっていただきまして、基本目標が5つありまして、私の立場で言うと、第一に教育をあげてくれて、稲敷市は教育に力を入れてくれるのかなという感想を持ちました。2つ目は、先程会長さんがおっしゃいましたが、私の立場で言うのもおかしいかもしれませんが、5つの項目の中で教育が一番で良いのでしょうか。何かもっと底になるものが先頭にこななければならないのではないかと、ということが個人的な考えです。ですから、ある意味では、5番が最初の方が良いのではないかと感じたところです。先程、学童の話も出ましたが、学校の近くや学校の敷地内に施設を建てているところもあります。ですから、稲敷市という地域の中で非常にバランスと言いますか、いろいろな事情を考えた動きがあるものから、稲敷市民全体に関わるような、分かるような市政をしていかなければならないのかなと思います。

野村委員：児童委員の野村と申します。第1次が終わり第2次になって、「すくすく子育て」が一番に挙がってきたというのは、やはり特殊出生率を上げて健康寿命を延ばすという人口減少の源を考えると、もっともなことなのではないかと思えます。

田村委員がおっしゃったように、合併して、子育て支援センター、放課後児童クラブ、普通の学童保育の児童クラブなど4地区それぞれにあります。最初の頃から見学に行ったり参加したりして見てきましたが、地域性がありますので、地域のニーズに答える形でそれぞれ活動してきて今があると思います。変化を見ていくと、当初は、利用してもらいたいということで施設の方が一生懸命PRしてお母さんと子どもを集めていましたが、何年かすると、利用者も減ってきます。その理由は、他の施設を利用しているということもありますけれども、内容がマンネリ化してしまっていることもあります。

し、行政側の方が子どもと親子に媚びているとういか、サービス過剰なイベントが多いと感じています。

児童クラブや放課後クラブも根本が違うので、もう少し整理して、若い人達が利用しやすいようなマニュアルがほしいと思います。子ども園もできていますが、保育園と幼稚園が一緒になるものですが、根本が厚生労働省と文部科学省とで違うので、先生方も戸惑いがあるかもしれませんが、幼稚園と保育園の違いは何なのか、子ども園のメリットは何なのか、先生方以上に保護者の方が手探り状態で利用しているところがあります。その辺りの説明と言いますか、若い保護者に分かりやすい説明、利用しやすいものを作っていたらいいと思います。

それから、今は働いているお母さんが多いので、子ども児童クラブや学童保育はいつも満杯です。地域によって、学校の中にできているところと、そうでないところとがありますが、それなりに子どもの安全を考えて運営しておりますが、利用しやすいように学校内に作るとか、そういったところを見直しして、ぜひ、利用しやすい子育て支援を作っていたらいいと思います。

それから、もちろん児童館の設置も目指しています。午前中はゆっくり0歳～2歳の親子が利用できるようなところを作って、学校が終わる頃には小学生が帰ってきて本を読んだり宿題をしたり今の児童クラブのようなところがあって、その他にも、今中学生は居場所がないように感じることもありますので、放課後の部活も人数が足りないところもありますから、児童館のようなところがあれば、中学生の居場所も確保できるし、交流もできるのではないかと思います。

横須賀会長：ありがとうございます。他はいかがでしょうか。

諸岡委員：ボランティア連絡協議会の諸岡と申します。将来を考えると教育は大事ですから、教育や子育てが基本目標の一番に挙げてきたことは良いことだと思います。ただ、優先順位と言いますか、そういったことを考えるよりも、ボランティアの立場からすると、それぞれの分野には分かれていますけれども、それぞれに協働、連携と言うのでしょうか、それが大事だと考えます。施策を考えるときにしても、例えば、1番と4番をセットに考えると良いのではないかと思います。東に光葉団地というところがありますけれども、皆さんご存知だと思いますが、最初の頃は、県外の定年退職された方達が移られてきていましたが、最近は、子育て世代の若い世代が増えてきています。中古で売れている金額が、20歳代～30歳代の若い家族も買える戸建ても多いということで、幼稚園のバスも通っていますし、公園で子ども達が遊んでいる姿も多く見かけるようになりました。団地で店をされている方とお話したのですが、すごくいいんだとおっしゃっていました。高齢化が進んでいる中に

若い人達が入ってきて、学区は西小学校なのですけれども、そこに若い世代が働く場と、お母さんたちが子ども達を保育園や幼稚園に預けている間に働く場所があるとか、総合的にこの5つの基本目標が達成されるような対策が立てられていくと良いのではないかと感じました。

横須賀会長：他はいかがでしょうか。まだ発言されていない方。

沼崎委員：市民代表の沼崎です。よろしくお願いします。人口の推移を見ていったときに、社人研による元々の予想というのは、恐らく自分達の作っていたビジョンよりもだいぶ悪いものだったと思うのですけれども、それを割ってしまっています。さらに、将来を見たときに、出生率も上がり移動率がゼロになっている状態での計画なので、これは高めの理想と言いますか、かなり厳しい状態なのかなと思いました。その中で、「まずはみんなでやってみよう！」のまちづくりの「みんな」というのは、市民で言うと、ひとりひとりになると思いますけれども、どうしても、市に対して、こうしてほしい、ああしてほしい、ということが多くなってしまいがちですが、それよりも、ひとりひとりが行動していかないと、かなりやばい状態だと私は捉えていて、とても良い基本理念だと思いました。ですから、基本目標の中でも、自分達が参画していくことがとても重要だと思っています。資料でいただいた「いなしきに住みたくなっちゃう♥プラン」を見ると、お金を出してもらえたりするものも多いと思います。これから税収が減っていくであろう中、お金を支払っていくものが多かったのですが、もっと自分達で意識を持っていかないといけないと思いました。

横須賀会長：時間もなくなってきましたけれども、その他はいかがでしょうか。

若松委員：市議会の若松です。この将来人口の推計を見ますと、やはり、今おっしゃったように、社人研推計値を下回る数字に落ち込んでいます。何もしなければと言いますか、近隣の市町村と同じ施策を実行しつつも、社人研の推計値のように落ちていくだろうと思っています。今現在、既に社人研の推計値を1,200人下回っているというレベルから、社人研のグラフ通りに落ちていくのではないかと思います。その中で、基本目標を実施していくということで、やはり、近隣市町村との差別化を図るべきであろうと思います。最低限の子育て支援、高齢化対策はやっていかなければなりません。さらに加えて、近隣の市町村にはない稲敷の良いところ、ここで言えば1番の中の「地域文化の継承」でありますし、「市民が楽しく取り組める生涯スポーツの推進」でもあると思いますけれども、こういった稲敷特有の文化というものを前面に押し出して、そちらの方に投資していくという形で、稲敷にはかなり良い面があるということで、近隣とは違う実行プランを作り上げていくべきではないかと思います。

横須賀会長：ありがとうございます。他はいかがでしょうか。

篠田委員：篠田です。危機的な人口減少に対して「いなしきに住みたくなっちゃう♥プラン」を打ち出して、今度は、人口減少について本当に真剣に考えていかなければならないというのが総合計画であるとすれば、今日的な課題ということも解消していきながら進めていかななくてはなりません。総合計画というものを意識して仕事をする職員の皆さんも少ないし、総合計画を意識している市民の皆さんも少ないです。それから計画していても突発的な事業も持ち上がってきて、全体の計画性ということがぼやけてしまいます。さまざまな問題というものは行政の方では改善していただきながら進めることになると思います。

私がもう一つ気になることは、平成 29 年度からこの基本構想が始まりますが、平成 29 年には市長選挙があります。前回、市長のマニフェスト、公約的なものも反映されるものである、というような説明が会長からあったと思いますが、市長の公約というものは、基本理念にまで及ぶようなものなのでしょうか。我々は選挙で何か言っても執行権がありませんが、市長には執行権がありますから、今基本理念について議論をしていますが、例えば新しい市長になった場合、どこまでこの計画に入り込めるとするか、政治的に影響してしまうのでしょうか。

横須賀会長：マニフェストと総合計画の関係ですけれども、今作っていて来年選挙だというときに、現職が立候補しないという場合は別ですが、立候補する場合は自分のマニフェストが総合計画とはほぼイコールで、計画に書いていないことを選挙の公約にはしないとします。ですから、そこはマニフェストと総合計画とは特に違和感を持たずにいけるとします。ただ、違う方が市長になった場合に、どのように調整するのかということですが、一番極端な場合は総合計画の作り直しです。もう一つは、計画内容のサイクル的な見直しです。参考資料 1 の 1 ページの下のところ、例えば前期基本計画とか後期基本計画とか実施計画とかがあると思いますが、一番短期的には実施計画の中で部分修正をしてくのですが、大きな出来事は少なくとも前期基本計画を見直して後期計画に反映していくとかということになります。前期計画が 5 年のところを 4 年で終わりにして、次の市長のマニフェストに合わせて後期計画を策定するということがよくあります。これは 5 年毎になっていますが、以前は基本構想 10 年、15 年に、基本計画 5 年、実施計画 3 年でしたが、今は基本構想 10 年に、基本計画 4 年、実施計画 4 年というサイクルも増えてきています。それは、最初からマニフェストと摺り合せをしていくという作り方です。ですから、違う人になったときには思い切って変えるのか、施策的にそれほど違いがなければ、そのままいくのかという辺りだと思います。

まだご発言したいという方はいらっしゃいますか。よろしいでしょうか。

墳崎委員：最初の話はどこに行ってしまったのかなと思います。人口減少の話をしてい
たのではなかったでしょうか。その話を掘り下げて、いろいろな方のご意見
を聞いたかったのですけれども、途中から、一人ひとりの主張大会のようにな
ってしまいました。お一人お一人考えていることについては、皆さんこちら
らに参加されるということは、市に対してとても熱いお考えをお持ちだと思
いますので、とてもお聞きしたいという気持ちもあるのですけれども、時間
も限られていますし、100人いたら100通りの考えがあると思います。今は、
せつかくここに集まったので、議論すべきことを議論するのが筋なのではな
いかと思ってしまいました。最初に話していた人口減少の数値から話が脱線
してしまったような気がしたので、その議論をしたいという気持ちがありま
した。

横須賀会長：ありがとうございました。本来であれば私が修正しなければならないとこ
ろなのですけれども、私の本音としては、ここでどうすると決めるわけにも
いきませんし、皆さんのそれなりの思いを事務局で受けていただいて、恐ら
く次の回に行政側の考え方としてのひとつの意見がまとまって出てくるとい
うことではないかと思えます。個人的には、それぞれ、そのことに関しての
ご意見を述べていただいて次の話をなさっていた方もいらっしゃいますので、
流れとしては何が何でも10万人にせよという話は出てきていないというこ
とでありまして、事務局もそのように受けとめているのではないかと思います。
まとめに入らせていただいてよろしいでしょうか。

本日はいろいろとご意見をいただきました。最初にきっかけとして、子育て
が最初で良いかという話を投げかけてみましたが、皆さんの意識は、やはり、
子育て、子どもをどう育てるのかというところに一番の関心があるのだと思
いました。やはり、自然増にも社会増にも子どものことが一番大事だと思っ
ていらっしゃるのではないかと思います。計画の中で皆さんのお考えをどの
ように具体的な施策や組織を含めて反映していくのかということが、行政に
とっての課題になったのではないかと思います。

それから、総合的にというご意見がございましたが、確かに5本の柱に分け
ましたけれども、それぞれが関連します。その部分を恐らくこの、「“まず
はみんなでやってみよう！”のまちづくり」でまとめたかったのではないか
と思います。行政に一番求められることは総合的に取り組むことです。部局
毎の自分の業務の整理ではなくて、それぞれが、例えば子育てであれば子育
てについて、何ができるのかということを考えながら、全体でまとめて取
り組んでいくという総合性が一番大事なのではないかと思います。

それから、他に比べて先導的にというご意見もございました。かつては都市

間競争で差別化というようなことを言いましたけれども、今はもう競争の必要はなくなってしまったのかもしれませんが。競争ということではありませんが、他よりも一歩前に出た施策を打つことによって、社会的な認知度が全然違います。稲敷という名前の知られ方が違います。一歩も二歩も先のことをやることによって、町のイメージと名前が広がっていき、そこに人が集まってくるということだと思います。ですから先導性ということは、とても大事だと思います。それから、そこまできたら“稲敷何ぞや”という稲敷の個性をはっきりさせて、それをみんなが意識するということです。どこにでもある稲敷だと思っているのかもしれませんが、稲敷にしかない稲敷だということを知って、それぞれが自信を持って住まうことで、少し変わってくるのではないかと思います。

今日嬉しかったことは、全体の話の中で、若い方からまずご意見がどんどん出てきたことです。私もいくつかの会議で無理やりに若い方を参加させて発言してもらうことがあるのですが、結果的にご意見を言った方々も、自分の意見が形となって現れたときに、会議に出た存在がありますよね。そこだと思います。意見がそのまま実現されるとは限りませんが、その話を真摯に受けとめるということが一番大事だと思います。ですから、せっかくご意見を言ってくださっている若い人達の気持ちを挫かないように考えていただければ、次の若い人達の参加があって、いろいろな局面で若い人達が自由闊達に参加してくる、そういう稲敷になると、また少し変わってくるのではないかと思います。ですから、次回からの進行でも若い方達のご意見を出していただければと思います。

あまりまとまらない形ですが、今日はあくまでも、たたき台の案というものに対して、皆さんが感じたことを言っていただきました。それを事務局の方でどう受けとめて次回につないでいただくかということで、お話の中では総合性、先導性、個性という話が出てきて、正しく、まちづくりの議論になってきたと思いますので、事務局の方でまとめるところをよろしく願いしたいと思います。

議事についてはこれで終わりにしたいと思います。

(2) その他

横須賀会長：その他について、事務局の方で他に何かございますか。

事務局：次回の第3回審議会は、6月下旬を予定しております。日程が決まりましたら、開催通知をお送りいたします。また、開催日が近くなりましたら、審議内容の資料をお送りしたいと思いますので、よろしく願いいたします。

横須賀会長：ありがとうございます。

まだ本当は言いたいことがあるという方は、この政策企画の方へご連絡いただいてお伝えいただければ、それも含めて整理していただけたと思いますので、ぜひ、言い足りなかった分は、直接事務局の方へ入れてください。よろしく申し上げます。

それでは、進行をお返しします。ありがとうございました。

4. 閉会

事務局：長時間ご審議いただきまして、ありがとうございました。また、貴重なご意見をありがとうございました。これをもちまして、審議会を閉じさせていただきます。ありがとうございました。

以上